

【テーマ1】 団体名 東京学芸大学

「メタバースを活用した先導的な教員養成・教員研修システムの開発」

調査の概要

◆課題認識： 教師の多忙感が増している中で、現代的教育課題を解決する教員養成・教員研修を通して一貫した教育者の学びのシステムが確立できていない。

（目的）メタバース空間上に革新的な教員養成・教員研修のプラットフォームを構築する

メタバースとは現実では難しい体験を可能にし、多様な他者と協働できる仮想空間

メタバース空間

VRコンテンツの開発

多様な他者との協働

- ・当事者としての疑似体験
- ・アバターに自身を投影
- ・現実にはできない体験

- ・いつでも/どこでも/誰とでも
- ・新たな教員ネットワークの創造
- ・養成と研修の円滑な接続

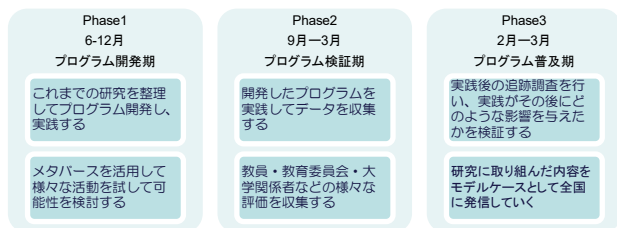
メタバースを工夫することで、教師の「新たな学びの姿」として求められている「主体的な姿勢」「継続的な学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」を育むことができる

現実空間ではできない学び方を実現する

→ メタバースの特徴を活かす

- ＊コミュニケーションの仕方の工夫（機能をコントロールする）
- ＊アバター選択の工夫
- ＊ファシリテートプロセスの工夫（発問を工夫する）

研究の流れ



取り組みの成果

メタバースを活用した教員養成・教員研修用のプログラムは、教師の研修の負担を軽減すると共に、その多様性を広げることができる。また、学生や教員のように異なる立場のものもアバター活用によって対話しやすくなる。このような取り組みは養成段階と研修段階をシームレスに接続させて、円滑な教師としての成長モデルを構築することができる可能性を持つ。

達成目標は全て達成できた

- 2自治体の教育委員会主催の現職教員研修の実施
- 大学の1つの教員養成科目での実施

大学主催の
+ 教員研修を
2回主催

目標

体育＋英語で実施できた

◆成果

・ 2つ以上のメタバースプラットフォームと 3つ以上のVRコンテンツ

・ 「多忙感」が解消されると回答した参加者が 75%超

・ メタバースを利用した研修が役立っていると回答した参加者が 75%超

・ 4.2のメタバースプラットフォーム
・ 3.2のVRコンテンツ

→ 感想とインタビューから達成できたことが推測される

→ 100%

今後の課題

通信環境の問題や機材の問題などがあり、参加者がまだ限られる状況にもある。このような課題を解決し、今後、このような研修手法が一般化されるように引き続き、努力をしていきたい。